

広報ちむりん

七月号

平成二十年七月 一日発行



もくじ

- 「リハビリは、嘘をつかない、ね!」 ニページ
- 訪問リハビリテーション ニページ
- 「誤嚥(ごえん)」について 四・五ページ
- 後期高齢者医療制度について 六ページ
- 「家族会」での語り 七ページ
- 七月の行事 八ページ
- 平成二十年五月入退院状況 八ページ

「リハビリは、嘘をつかない、ね！」



ちゅうざん病院 理事長 今村 義典

この言葉は、プロ野球のミスタージャイアンツこと長嶋茂雄さんがテレビ出演した際の言葉です。

脳梗塞で倒れ右片麻痺と失語症を発症された後、リハビリに励まれ不自由な体にもかかわらず、にこやかな笑顔で、多くのファンに迎えられたことを御存知の方は多いと思います。

世間の脚光を浴びただけに辛い経験であったことと想像されます。厳しいプロの世界のトップを生き抜いた人の持つ底力で「脳卒中の障害と闘った」リハビリの成果の本音を感じます。

ちゅうざん病院にリハビリを受けるために入院して来られる多くの患者さんも、同じように、必死にリハビリを行い、その結果を期待しています。

しかし、三ヶ月以上も入院して歩いて歩くことすら出来ないで退院される患者さんが居ます。大変残念に思います。

何故でしょうか、「麻痺や障害が重い」とか「知能意欲の低下」が原因のこともありますが、「異常反応が起る」とか「痙性が強くなる」など神経生理学的に根拠のない間違った治療法で、起立歩行の治療に大切な二、三ヶ月目のゴールデンタイムの時期を失っている」ともあります。

私が、十余年前に沖縄に勤務した頃、ある病院の一部のリハビリスタッフ達が、前記のような理屈で五、六ヶ月以上過ぎてても、積極的な歩行訓練がされないまま、車椅子で転院させられて来る患者さんに驚いたことがあり、遅まきながら下肢装具を作って早々に歩行させ喜んで退院した患者さんのことが思い出されます。

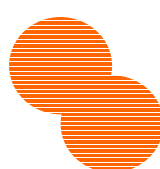
医療者のリハビリの目的は、「患者さんの障害との闘いをお手伝いし、一日も早くその人らしい人生を取り戻すこと」を支援することであり、リハビリ医療者が間違った理論で社会復帰の足を引く張る結果になることは許されないと常々憂えることがあります。

例えば、最近「がん」の治療法を患者さんと共に選択することが行われるように、これからは、治療について患者さんに「インフォームドコンセント 説明と了解」を得て治療法を選択することも、治療者として大切な責任だと思えます。

先月、日本リハビリ医学会が横浜でありました。国際的な学者も招待しました。リハビリ医学もここ数年大変進歩していますので、常に、新しい知識の吸収が必要な医学の世界です。

日常の治療で、必死に闘った患者さんに「リハビリは嘘をつかなかった！」と納得して退院できるような結果エビデンスを治療者として実践したいものです。

偶然、「文芸春秋」六月号に作家のねじめ正二氏が「長嶋さんの闘い」という短いエッセイを書いておられたので、患者さんの気持でリハビリの提供のあり方を再度考えてみては如何でしょうか。



訪問リハビリテーション

作業療法士 坂元佑希子

訪問リハビリテーションとは、病気・けが・老化などにより心身に何らかの障害をもった方が、在宅生活を送る上でその人らしく自立した生活が送れるように、サポートしていく役割を担っています。

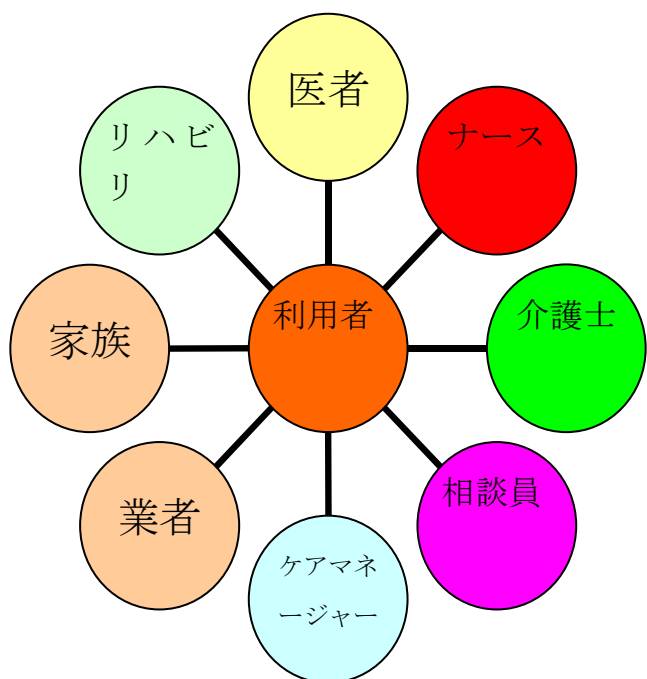
具体的な活動内容としては…

- ①日常生活へのアドバイス・指導・支援
- ②家族や介助者への介助方法の指導・精神的支援
- ③家屋改造の助言
- ④福祉用具などの利用の助言

など、在宅生活を送る上で利用者や家族の困っていることや悩んでいることや悩みを、一緒に解決しています。

また、病院から在宅に戻られてからも、対象者を取り巻く多くの専門スタッフが手を取り合いながら、安心して安全に生活できるようにお手伝いしています。

訪問リハスタッフは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が勤務しています。1階フロアの地域連携室までお気軽に声をかけて下さい。



このように、多くの在宅支援スタッフと連携をとりながら、住み慣れた場所で再び日常生活が送れるように、利用者だけでなく、その家族に対しても支援していけるように心がけています。

「誤嚥(ゐんえん)」について

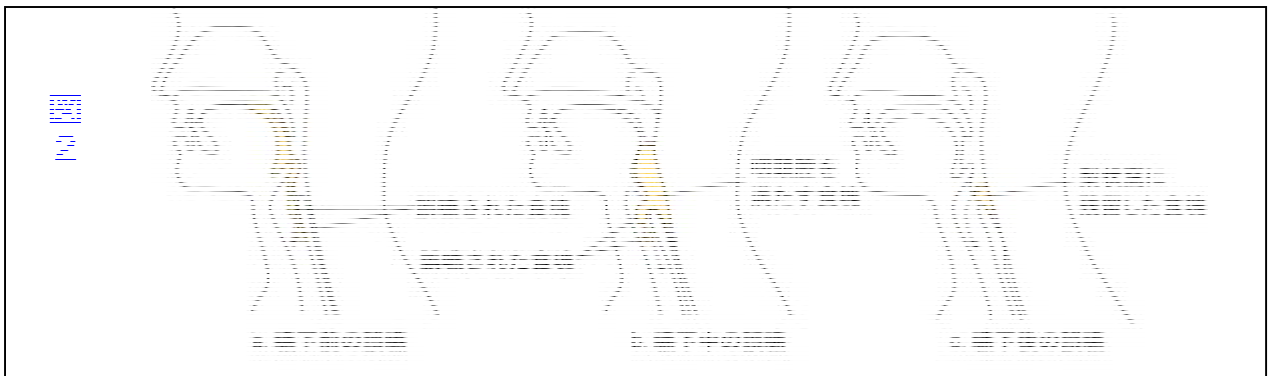
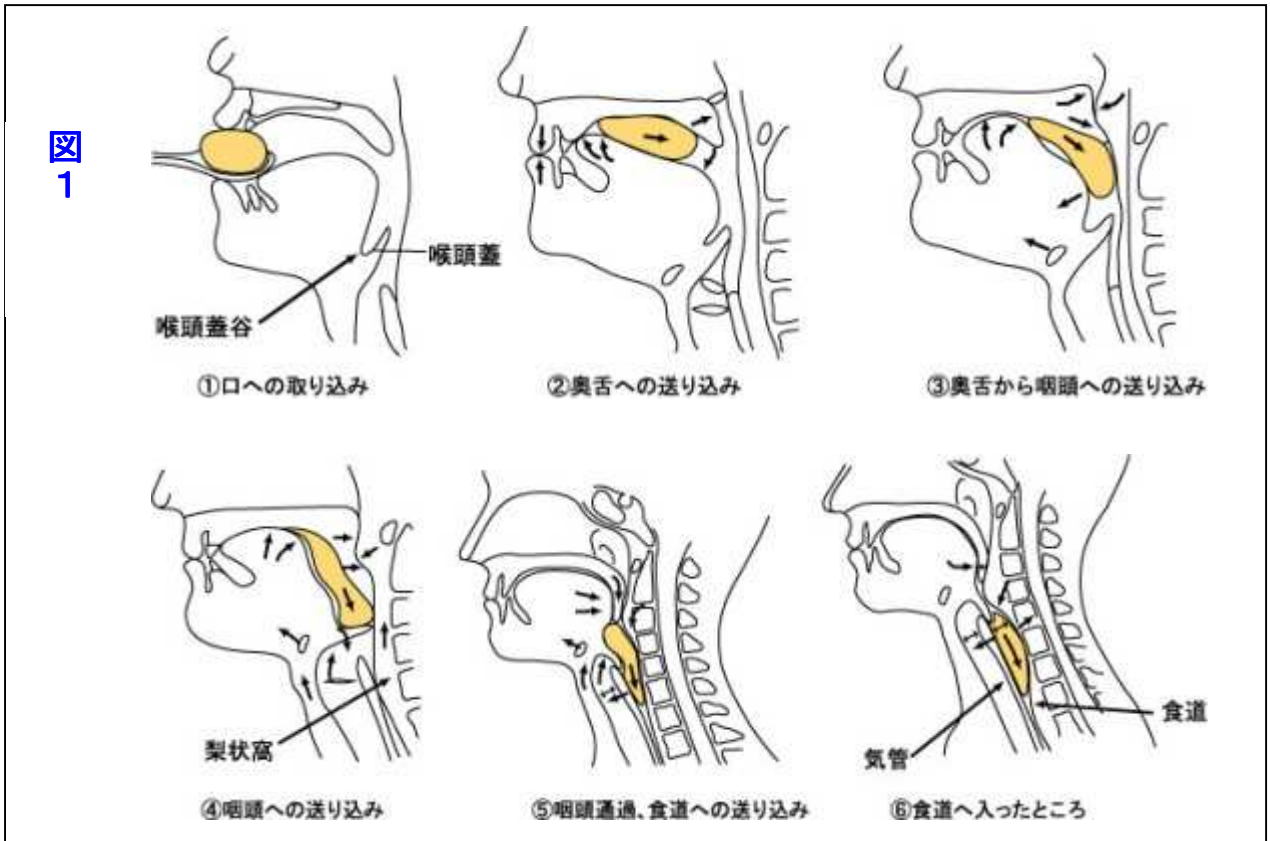
医師 前原 愛和

食事をするときには色々な面があって、リハビリテーションでも多岐にわたって問題点があがってきます。

食事をするのことを 摂食 せつしょく」とという言葉で表現します。これには、まず、食べ物が口に入る前に、何を、どのくらい、どのように食べるかを決めて行動をおこすことから始まりです。次に、口の中、これを口腔 こうくう」と言いますが、食物はこの口腔に入って噛み砕かれます。この段階を 咀嚼 そしゃく」と言います。この噛み砕かれた食べ物を舌がまとめあげて、喉の奥にある咽頭 いんとう」という部分へ送りやすい形にした上で、食べ物が口腔から咽頭の方向へ送り込まれます。ここで反射運動というのが起って、咽頭から食道へ食べ物がさらに送り込まれる運動がおこります。この食道に入った食べ物は食道の筋肉による蠕動 ぜんどう)運動によって胃の中へ送り込まれます。この一連の運動を 嚥下 えんげ」と言います。また、脳卒中

などで、これら一連の嚥下運動が円滑にできないことや食べ物の通り道に障害物があって通過しにくくなってしまったことを 嚥下障害」といいます。

嚥下の過程を図でみてみましょう。まずは、空気の通り道 気管)と食べ物の通り道 食道)は、前後に隣り合わせに位置します。ここが一つのポイントになります。気道の入り口には、喉頭蓋 こうとうがい)という気道に蓋 ふた)をする役目をもった部分があって、これが嚥下運動と共に下向きに倒れて、食物が食道に送られる時に気道に蓋をしてくれます 図1の④と⑤を参照)。この働きで食べ物が肺に入っていくかないのです。図にある、喉頭蓋谷 こうとうがいく)と梨状窩 めじょうか)とは、食べ物が留まる空間のようなものです。喉頭蓋は普段は上を向いており、舌根 ぜっこん)との間に谷間ができています。この谷間のことを喉頭蓋谷と言います。また、食道の入り口にある左右の袋状の溝を梨状窩と言い、舌から喉頭蓋谷に達した食物は、左右に分かれてこの梨状窩を通過して食道に入っていきます。



嚥下障害で最も深刻なものは、食べ物が

気管に入ることです。これを誤嚥（ごえん）

といいます。食べ物や唾液などの分泌物が

気管に流れ込むのです。そして、この誤嚥

には、普通、誤嚥がおけると反射的に咳込

んでむせてしまうものですが、むせない誤

嚥も多くみられます。自覚症状がないため

気づくのが遅く、むせる誤嚥よりも肺炎を

引き起こす確率が高いと言われています。

むせない誤嚥は誤嚥する患者さんの3、

5割にみられると言われています。また、

誤嚥は、嚥下運動の「前」と「中」、後」

におこる、3つのパターンに分類されます

図2。誤嚥の中で最も多いものが、喉

頭蓋谷や梨状窩に溜まった食物が、食事の

後や臥床（横になった状態）の時に気道に

流入しておこる嚥下運動「後」の誤嚥です。

後期高齢者医療制度について

医事課 上与那原 寛之

平成二十年四月からこれまでの老人保健制度に代わり『後期高齢者医療制度』が始まっています。『後期高齢者制度』は、七十五歳（一定以上の障害のある方は六十五歳）以上の高齢者を対象とした、新しい独立した医療保険制度です。

●対象者

七十五歳（一定以上の障害のある方は六十五歳）以上の高齢者の方が対象となります。

●保険料

後期高齢者医療制度の適用は誕生日からとなります。保険料 後期高齢者医療制度の被保険者になった高齢者の一人ひとりが、この制度に対する保険料を納めます。保険料率は、市町村を問わず県内均一となり、保険料は、原則として年金から天引きとなります。

●窓口での負担割合

医療費の自己負担は、現在の老人保健制度と同じです。一般の人は一割負担、一定以上の所得がある人は三割負担となります。

●被保険者証

後期高齢者医療制度では、被保険者証が一人に一枚交付されます。保健年金課から平成二十年三月中に交付されます。

☆入院・外来の患者、御家族の皆様へのお願い……

毎月一度、受付にて保険者証のご提示をお願いします。

ひびきまめ

来月には、患者・ご家族の皆様、外出や外泊を予定してはどうか。気心した方々と過ごすのは心和むものです。リハビリにもよい効果となります。今年の旧盆は、八月十三日水曜日（ウインケー）～八月十五日金曜日（ウーケイ）となっています。

「家族会」での語り

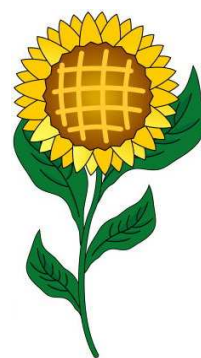
六月二十八日(土曜日)午後二時から三時半まで、当院五階ホールにて家族会を開催いたしました。患者やご家族の方々総勢二十七名が参加されました。

退院後の生活に関する疑問や不安、その解決方法など参加者同士様々な意見が交わされました。また、当院で今後取り組んでほしい行事について幾つかご提案を頂きました。会では、津波古由紀さん(通所リハ看護師)実演による『嚥下(えんげ)たいそう』も行いました。皆さん楽しみながら体験できた内容だったと思います。

今後毎月一度家族会を開催します。今回参加者の方々から頂きましたご意見、ご要望を検討させて頂き、患者ご家族の皆様にとってより有益な会に発展できるように努めていきます。次回も多数の皆様のご参加をお待ちしています。

日時 八月二十三日(土曜日)午後二時～三時半(予定)

内容 介護保険について、等



津波古さんによるえんげ体操



「食事療法について詳しく知りたい」
「退院前は家族も心と体の準備が大切です
など、活発な意見が多く聞かれました。」

七月の行事

七月七日(月)……七夕

七月十七日(木)……六月ウマチー

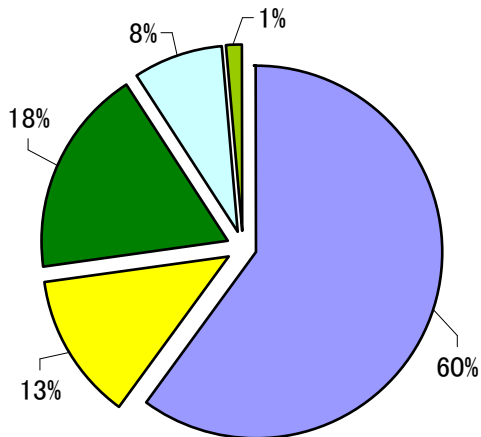
七月二十一日(月)……海の日(祝日)



皆様お疲れ様でした
次回は8月23日です

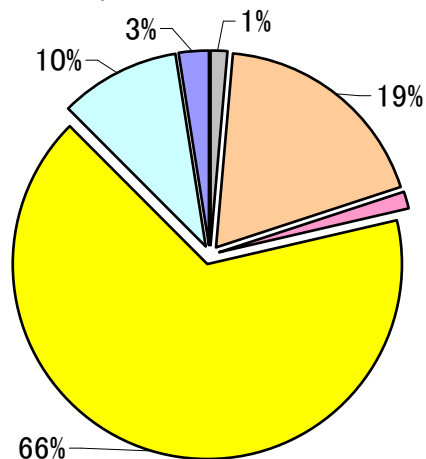
退院患者数78名

- 自宅
- 転院(急性期・療養型)
- 施設入所
- ショートステイ
- その他



入院患者数80名

- 公立病院等(南部)
- 公立病院等(中部)
- 公立病院等(北部)
- 民間病院等
- ショートステイ
- 自宅



【平成二十年五月入院退院状況】

